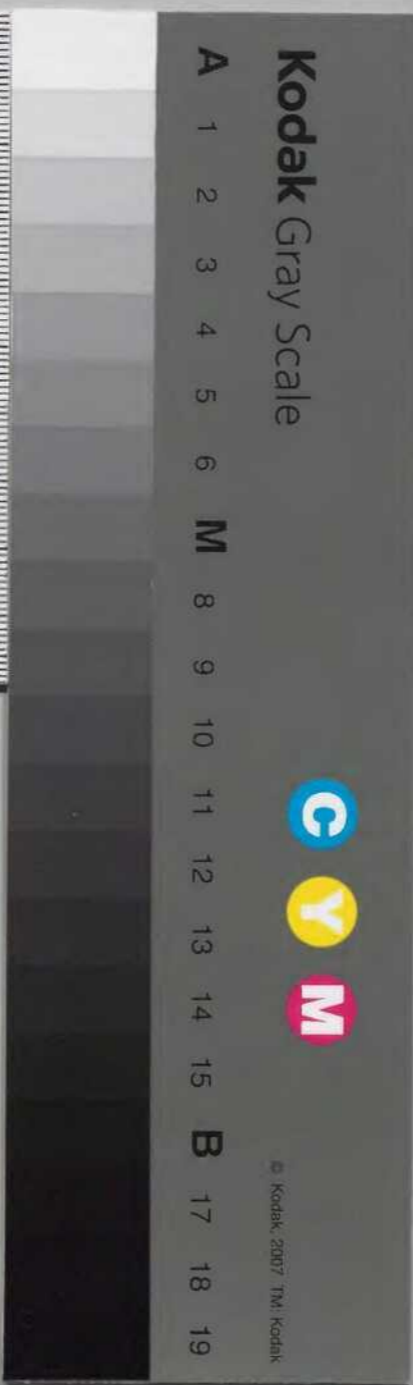
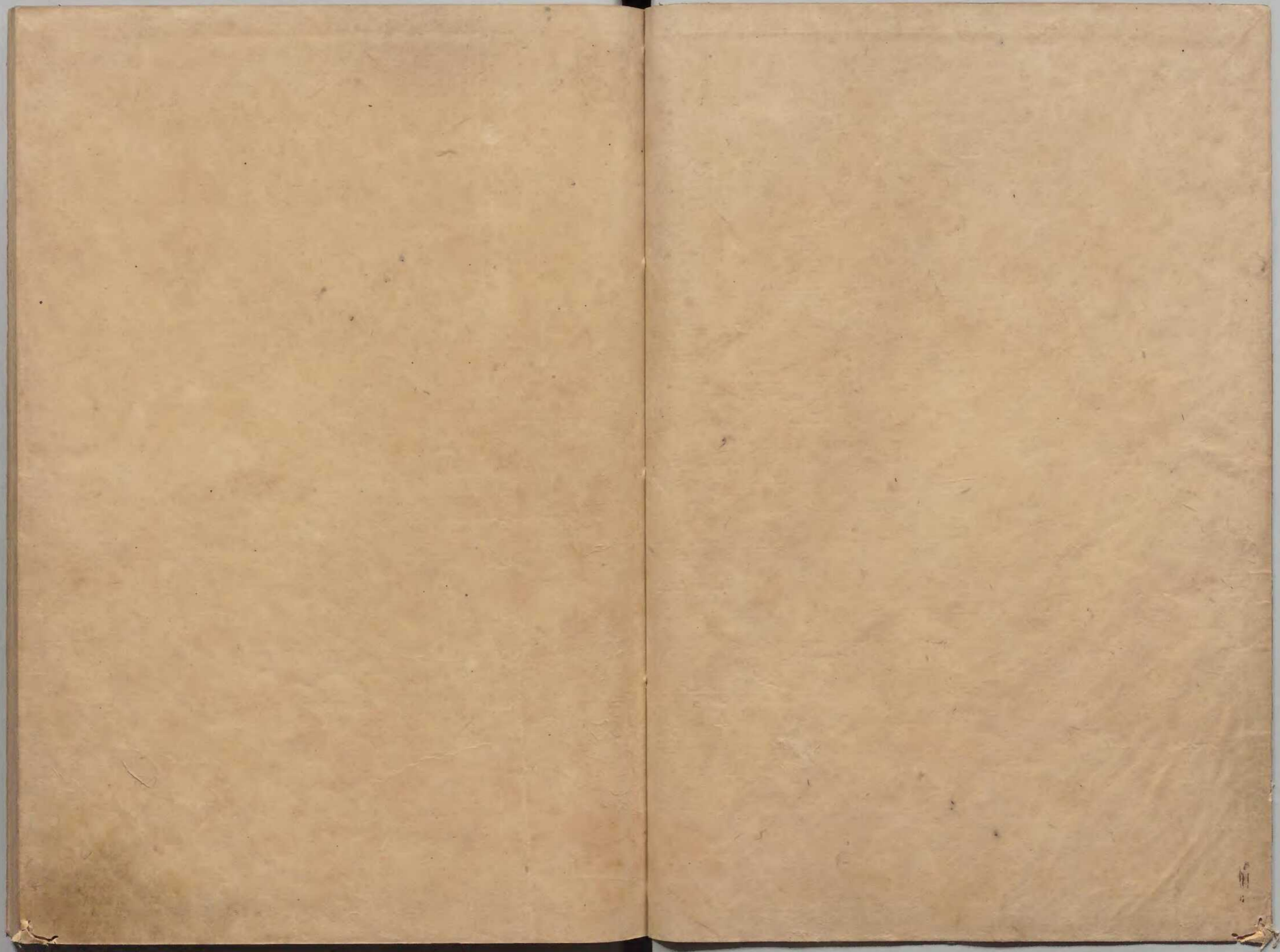


寛永諸家譜

宇多源氏
七卷之内

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (154)
函號	特 76 1





弓馬と云うはなし

義経よしのぶ

共部ともべ 臣おみ 後出位ごしゅい 下した

よしのぶのなまはる

経方よしのぶ

源次よしのぶ 史し

季定よしのぶ

依よ 本もと 源次よしのぶ 史し

秀義よしのぶ

源よ 之の 子こ 孫そん 杉すぎ 卯う

家行よしのぶ

依よ 本もと 源よしのぶ 史し

憲家

山崎六郎

右大将家乃信よりしりく田中道

少将と

家傳よりしりく憲家よりしりく相別

山崎より住よりしりくちり別

せりしき大上郡山崎城より

累世伝々来れりありしりく

ざりしりく乃名とありしりく
建永元年より死す歳十四 法名
阿弥

定家

山崎六郎

承久三年四月七日に死す 歳六平

廣家

山崎右衛門

重家

小右衛門

右家

与一

祐家

源八

長康

橋次郎

法名阿念

康家

山崎六郎

氏定

源六

此間数代申絶

重家

山崎源右衛門 口川大右衛門 山崎

乃城右衛門

四十一歳より之死す 法名是覺

宗家

与一彦丹後守居城前
五十六歳少く死す 此乃首終

行家

源重房志摩守居城前
作、本末忠の依義弼、家老後、家信等
也、あつし、しつ、我弼、信等

とありと、道なり、うらと、行家
海北城、引、新、不、時、織、内、信、家
以、別、不、後、白、と、行家、す、うら
信、長、小、房、一、く、軍、忠、と、ぬ、き、ん、つ
天、正、十、年、六、月、二、日、信、長、薨、逝、此、時
安、土、乃、城、也、ま、る、共、火、よ、り、不、始、
行家、が、宅、也、同、朝、火、下、逢、此、時、旧、記
等、楊、失、也、
同、月、秀、吉、明、智、と、殊、と、其、年、也、

台漣院殿乃鈞命ノ艾乃漢ノ
と強ノ同州乃城ノ唐ノ
受長十七年七月後之信下ノ
大坂友成涉陣ノ信奉ノ松平武智ノ
同一月小ありて戦切ノ
元和二年七月乃城ノ
いれくゆ中國成羽ノ
寛永十五年四月
將軍殿乃鈞命ノ成羽ノ改

肥後國三草苗屋乃城ノ
同十一年大草ノ乃城ノ
乃内福川乃城ノ乃田多乃城ノ
と本乃城ノ乃城ノ
乃城地ノ

後

乃迎志摩守
寛永十一年十二月後之信下ノ

豊家

劫箱中

弘家

伊織

家乃級此解のうらよ自結

● 寄 函

出 國 近 江

萬 年 一 日 法 所 一 信 長 一

建 部

依 本 東 流 也 世 箕 地 城 一 居 任
一 遠 中 の 名 一 教 一 取 一 取 一
一 族 一 一 一 一 一 一 一

つゝ信長薨しつゝ乃ら秀吉小
治へ移州乃郡代とあり小治小
治と云々乃ら秀吉の命と云け
松州危濟乃郡代と云々
是又長十二子危濟よりと云々幸
一歳ありて死す

元年

内通 後之位下

秀吉よりつゝ乃ら秀吉
薨して後秀吉よりつゝ乃ら
乃郡代と云々乃ら乃ら
七百石と云々知す
是又長十二年二十歳ありて卒す

改長

内通

元年 卒す乃ら改長知す

予よりいふ所り秀頼兩儀に後継は
なき事ありしに池田輝政縁者大
よりいふ所りすまひら

東照大権現と云ふ

右徳院殿へ言上と云 西河兩儀邊

なくしと云ふと云ふと云ふ 片桐重正

小舟せし政長と云ふと云ふ 此縁

とつと云ふ故へ縁府ふと云ふ

大権現と云ふ 予よりいふ所り

予よりいふ所り

右徳院殿へ福と云ふと云ふと云ふ

予よりいふ所り 石と云ふ

予より長十九日冬大坂新田乃時

代友所の告報米味申下と云ふ

予よりいふ所り 政長と云ふと云ふ

と云ふけこけと云ふ 代友所其外

杉所乃うらぬ人償と云ふと云ふ

予よりいふ所り 志免と云ふと云ふ

とう一尾崎と終らんことあり
とと城乃學園なることあり
政長一軍を遣はんことと南郷越守及
いふめく大軍とて遣はんこと
大権現ありが智謀と感とた
りあり
大権現杉平主殿以下一尾崎と

まのし時一政長福丸と
勝山ありと
大権現杉平一尾崎と
地ありありと
感と杉平一尾崎と
翌年清陣ありと
杉平紀伊守ありと
大権現杉平一尾崎と

同年七月廿一日二条乃城小と
大橋乃城福とてつる手沖和
一乃をとりて一乃人質ととり
尾崎と守りてつる代友乃若松
を大坂乃城に送るも甚忠節
なりとすつる加増とて杉
尾崎を過河色郡ありつる石
お銀とて伏見乃城に送る

台津院殿より福をそつる忠節
沖威乃命とてつるつる
同二年七月伏見乃城とて
信りつる河色とてあり
揚州揮東郡乃肉とて余
あきとて居る

免通

勅云

大坂夏陣 陣小人價わく
二条乃城 了
大修理を命 せまらん
寛永之冬十二月
將軍 彰 福 了
松乃 齋 了

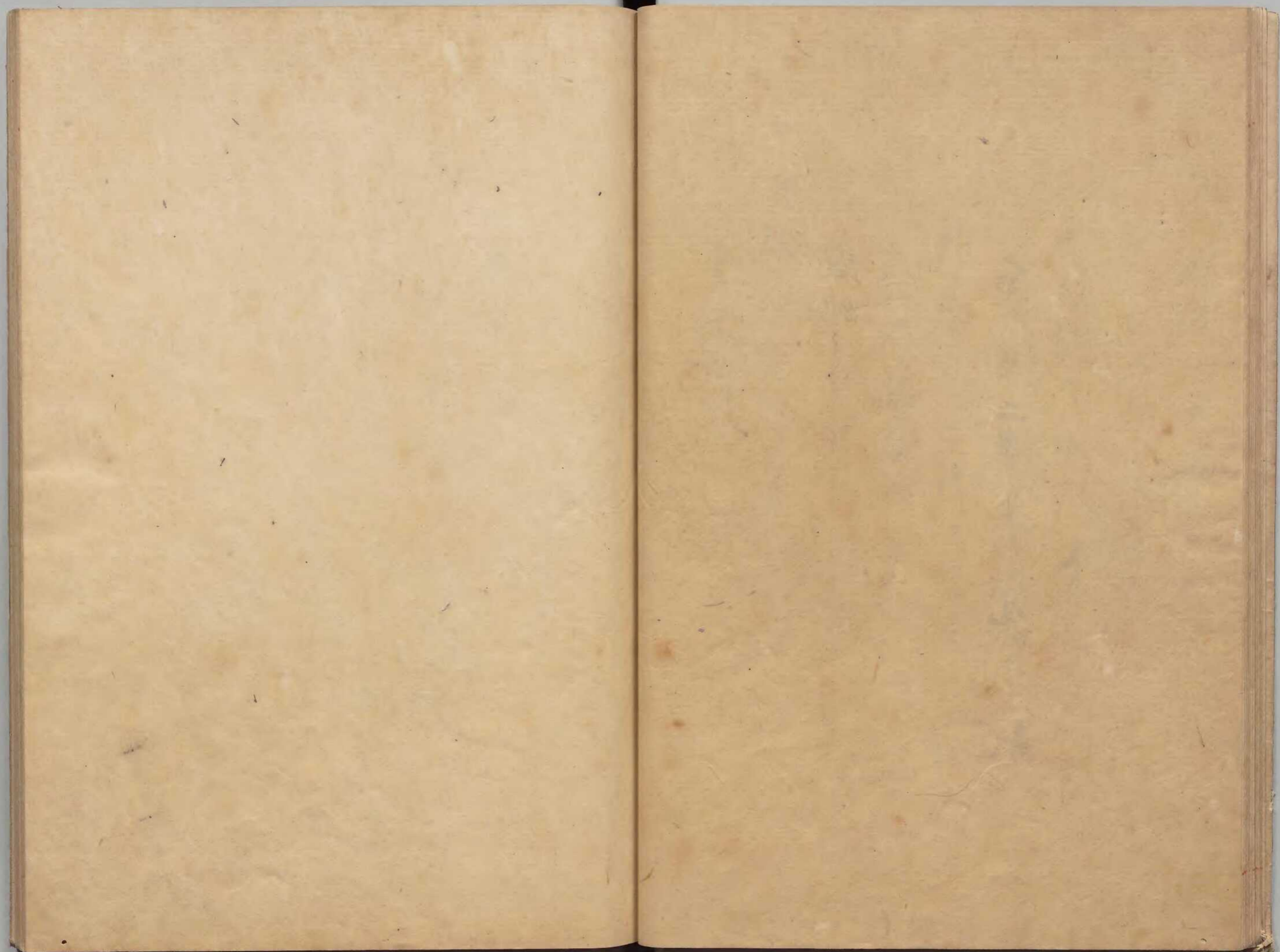
政勝

と七郎

克政

織部

家乃 級 二 蝶
九の 月
新



遠郡

伊木乃末流あり先祖代々別
箕比乃城より伊と古成を伊庭
後遠中ノ后位ナリ
あり遠郡号を伊庭
あり伊木乃末流あり

● 某

系女けいめい

某

日向ひなた

依よ木き取と禰ね二に男おとこ右みぎ出でつつ依よ義ぎ強かち家か元もと

賢文けんぶん

侍内じらい

能よ書か乃の卷まああ中ちゆう

昌具しょうぐ

侍じ右みぎ出でつつ生なま國くに名な

及およ長なが之の依よ見み一ひと之の

大おほ修しゆ理り一ひと得と見み一ひと之の時とき

十七歳じちさいあり

某

休之

昌親

次右衛門

寛永十六年

將軍家より侍之り

直昌

侍内

右衛門殿

將軍家より侍之り

昌勝

甚右衛門

寛永十二年

將軍 敬 不 可 言 也

敬 乃 級 九 乃 一 乃 小 奉

● 系廣

系化守

中里上江田村

田付

傳々傳々末末商標
とととととととととと
郡田付村
号

永定

英化守 牛國回前 法名体層

永澄

昔庫助 牛國回前

つ祿小鉄炮 七ノ月ノ業トモ故

寛文十一年 小鉄ノ書トモ

大権現ノ一ツノ書トモ

元和五年 一死トモ 歳六十四
法名宗鉄

永治

元即昔業 後昔庫トモ 牛國回前

元和五年 一

台徳院殿 一ツノ書トモ

寛永十四年 一死トモ 歳五十七

系利

甲馬岩末 生國 武彦 江戸

寛永十一年

將軍 敬不 福 不 之 之 子

家乃 級 目 録

● 資 惠

大原
光祖 河内 甲賀村 山氏 あり

半九郎 生國 近江
義晴 將軍 あり

虎資

半二高 生國回あ

とどめは義昭が軍よりつゝ後中へ
あつて今川義之よりつゝ尾別
栗田よりつゝ討死 法名道中

資盛

十郎あ 生國駿河

今川義之よりつゝ氏真よりつゝ

資次

徳右衛門 生國回あ

信別 甚田右衛門信よりつゝ具子あ
左更 逐電のり

大権現よりつゝ

台 酒房 敵よりつゝ

河 切 未よりつゝ

寛永七年七月廿二日、病歿也。
八十、法名常永。

源政

源光宗 生五、上野

台、徳信殿、つゝ、本とくま、り

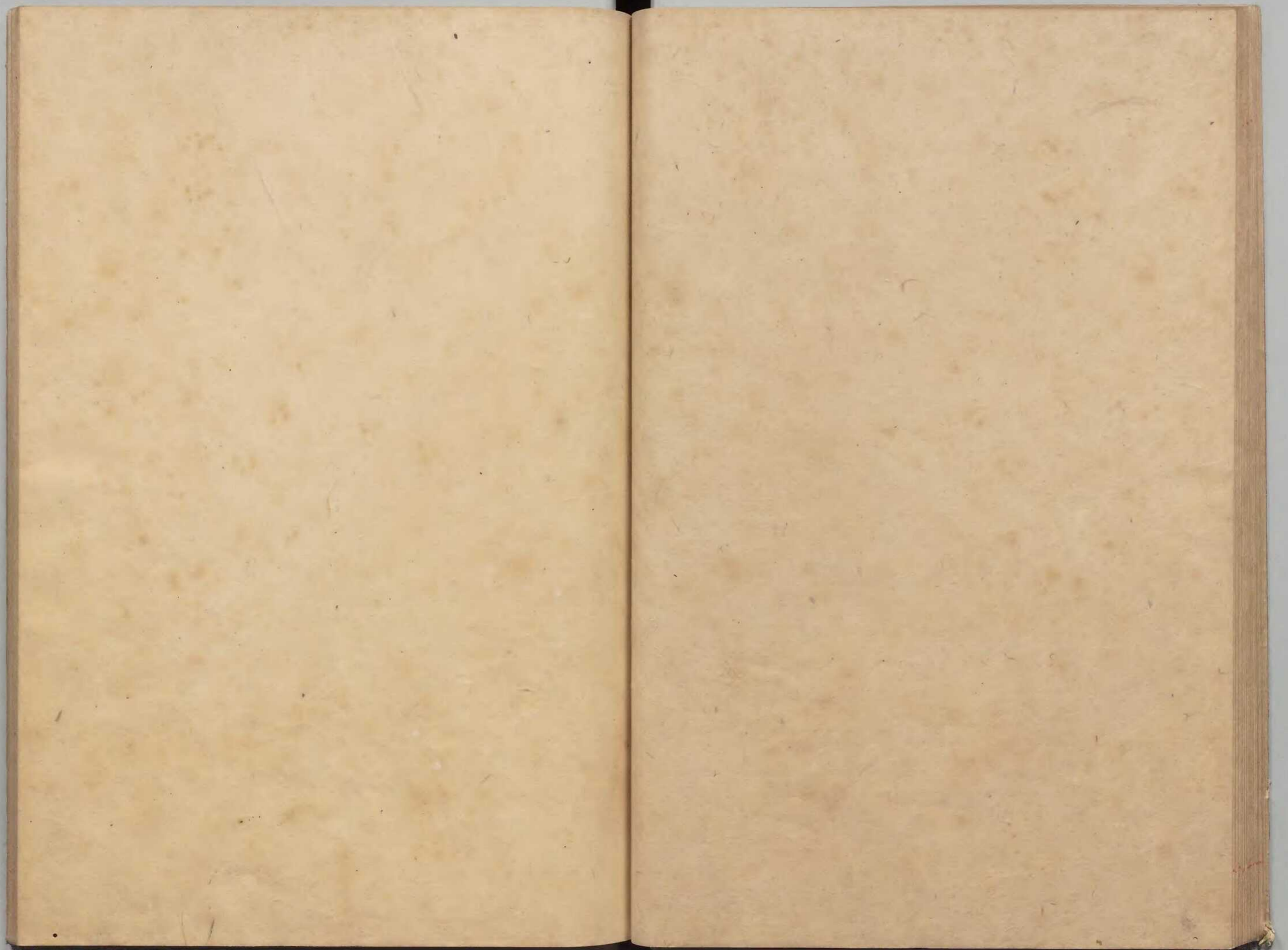
大坂、高、度、清、陣、下、侍、奉、候

将軍、敵、下、つゝ、つゝ、つゝ、つゝ

家乃、級、本、凡、二、列、女

二、列、女、ハ、方、方、た、ま、り

故、ノ、源、級、也、と、云



序次

●宗重

市古妻乃 生國 近江

大権現 下 了 人 本 是 乃 乃 乃

宗次

市古妻 生國 参河

台德侯殿_下 行_入 病死
元和二年_下 病死

宗_子 唯_子

又_之 郎 出_國 武_元 江_戶

台德侯殿_下 行_入 病死

寛永七年_下 小死_之 歳_字 三_行

清_心

重_次

又_之 郎 出_國 回_家

七_歳 乃_時 父_死 之_行 乃_行

將軍_家 乃_行 乃_行 乃_行

家_乃 級_乃 藤_乃 香_乃



● 某

丹波

平井

以別安土乃平井あり長勝い
とけありして父はとけ
先社をつまびらふ事あり

某

彦乃殿

長勝

久太郎

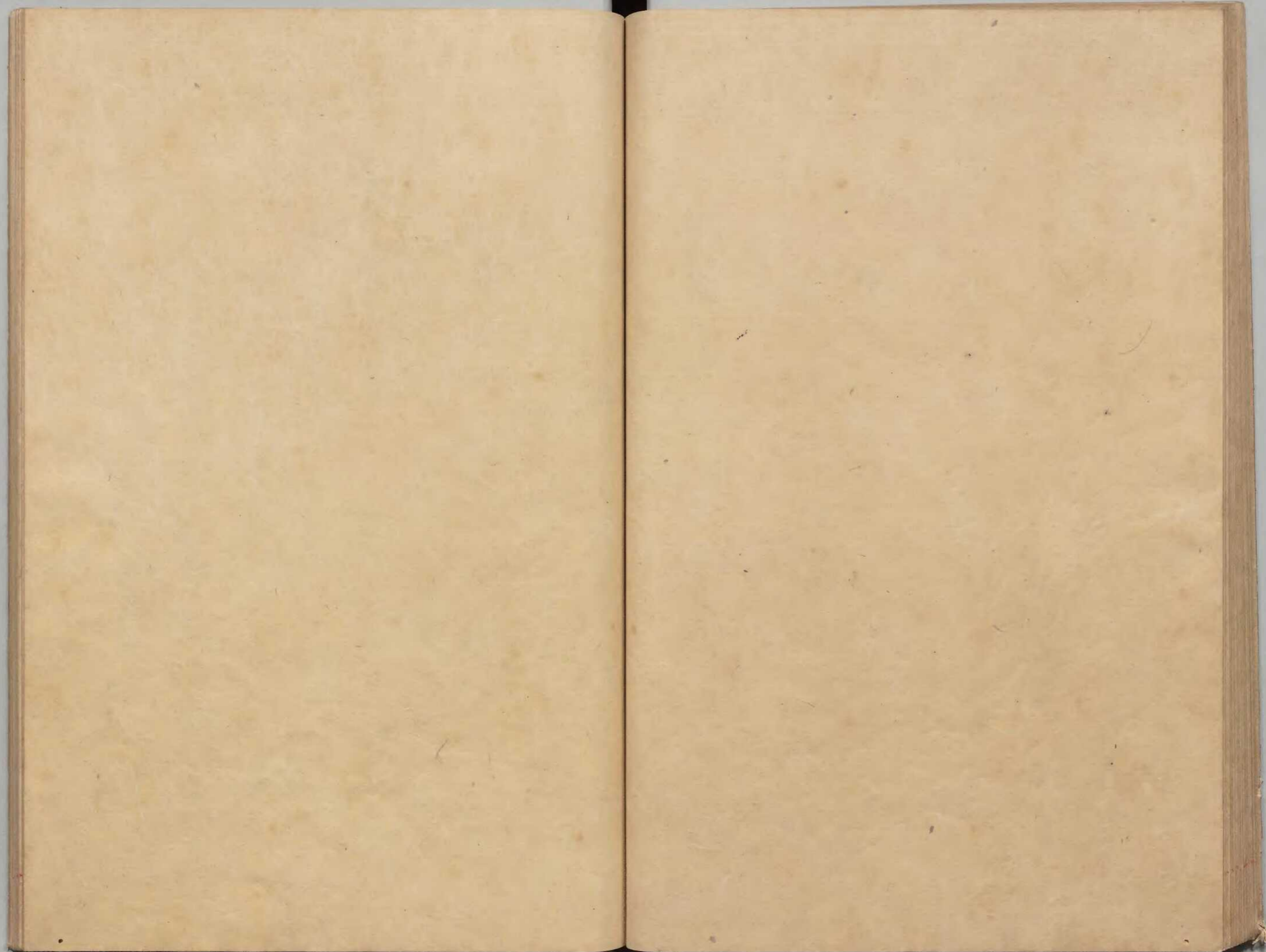
元和之年

台浦信殿

お孫

將軍殿

家乃殿



平井

友次

らとちあつ 生國之河

廣島郷より

大杉現よりつるをまつるに別

安城よりよむに討死

次忠

新之島 生國回前

大指現 一つとくをきくうらり之方原

一とくをきくうらり

重次

新之島 生國回前

大指現

重吉

新之島 生國回前

寛永十三年

將軍家より一つとくをきくうらり

台徳院殿より

將軍家より一つとくをきくうらり 安海

沙帯代あり

寛永十二年病死 歳七十五

家乃級
乃巴

為道

野村

依よ木き系けい格かく此こ流りゅうあり

伯耆守 幸しゆん領りやう江かう別べつ國こく友ゆう

後ご井い備い前ぜん守しゆつつ野の村むら乃の城じやう

居ま不ふふふりりくく野の村むら号ごう

為勝

彦太

三歳乃時年修とさる

文祿三年十一月十二日

台徳信殿よりまみしるる

勅付

是の長の子と秋系勝らじま

大権現

台徳信殿奥川へ致す

尊命をうけたまはり

彼小傳と秋系勝が領國とす

ち人乞とあや

を寄して給ふ

らまはりしきを達

奉命とす

奉命とす

奉命とす

石田治部少輔運言と念是よりわく
大権現、東海道より駿河より
台漣院殿、中山道より津進殿此所
為勝侍奉

大坂より乃津陣小島よりいし
多し此名切よりわく元和元年
國古氣乃内より領地となす
同六年島見同心とわづら
寛永二年上総國東金部下総國
栗

領友而此代友と 修村ら
同十年七月一日小島と歳二十
法名玄清

為重

藤之郎 後彦定と改し生
印

元和元年九月十五日

台漣院殿よりすみえをてする

為次なり

源光宗

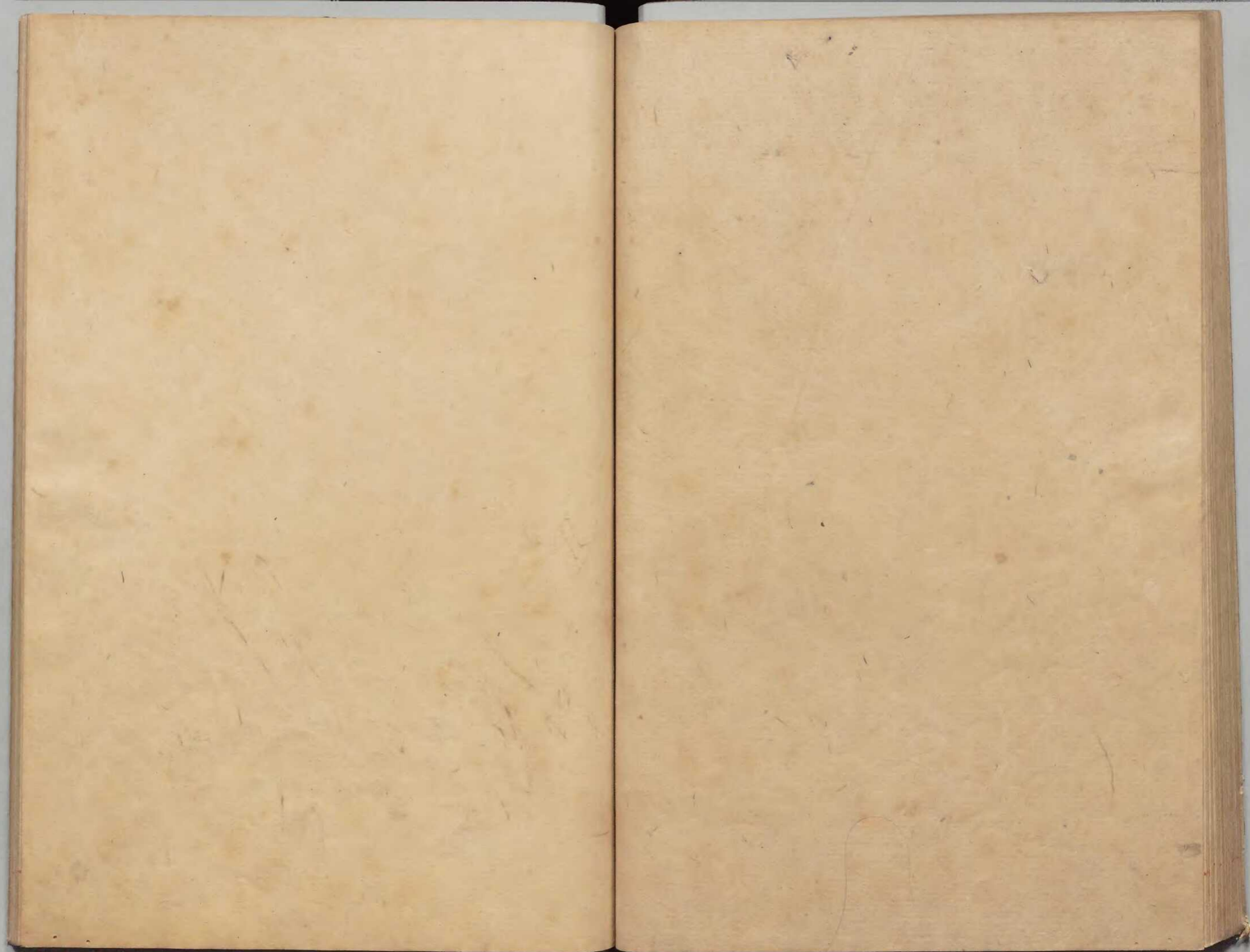
寛永十一年八月一日

將軍家なり御福なり平なり之なり山なり宗なり

為利なり

店なり

家乃段乃此内
揚羽蝶なり



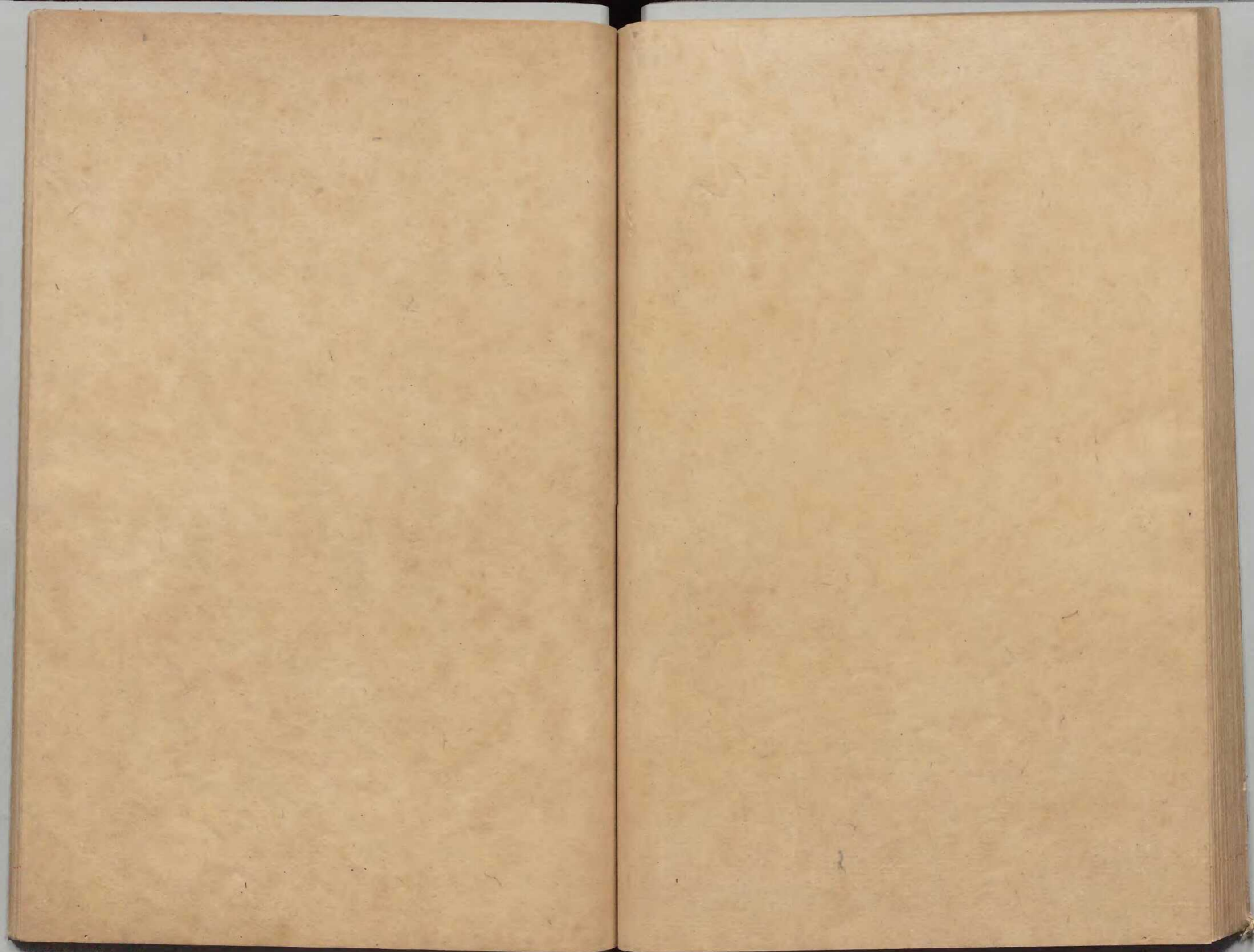
野村のむら

●
春はる

助六郎すけむさし 生國なまくに 名
織田おだ 信長のぶなが 了りょう

貞まこと

次郎つぐひら 宗むね 生國なまくに 同どう 前まへ



川添

正後

武部 牛國 迎江

秀吉 子 子

長 十九年 子 子

清原 宗 國

重次

六巻 十國同前

一ノ月秀頼一ツノ右後漢

ノ故

台津院殿一ノ行ノ事ニ付

寛永十三年九月廿一日

一ノ一ノ

重勝

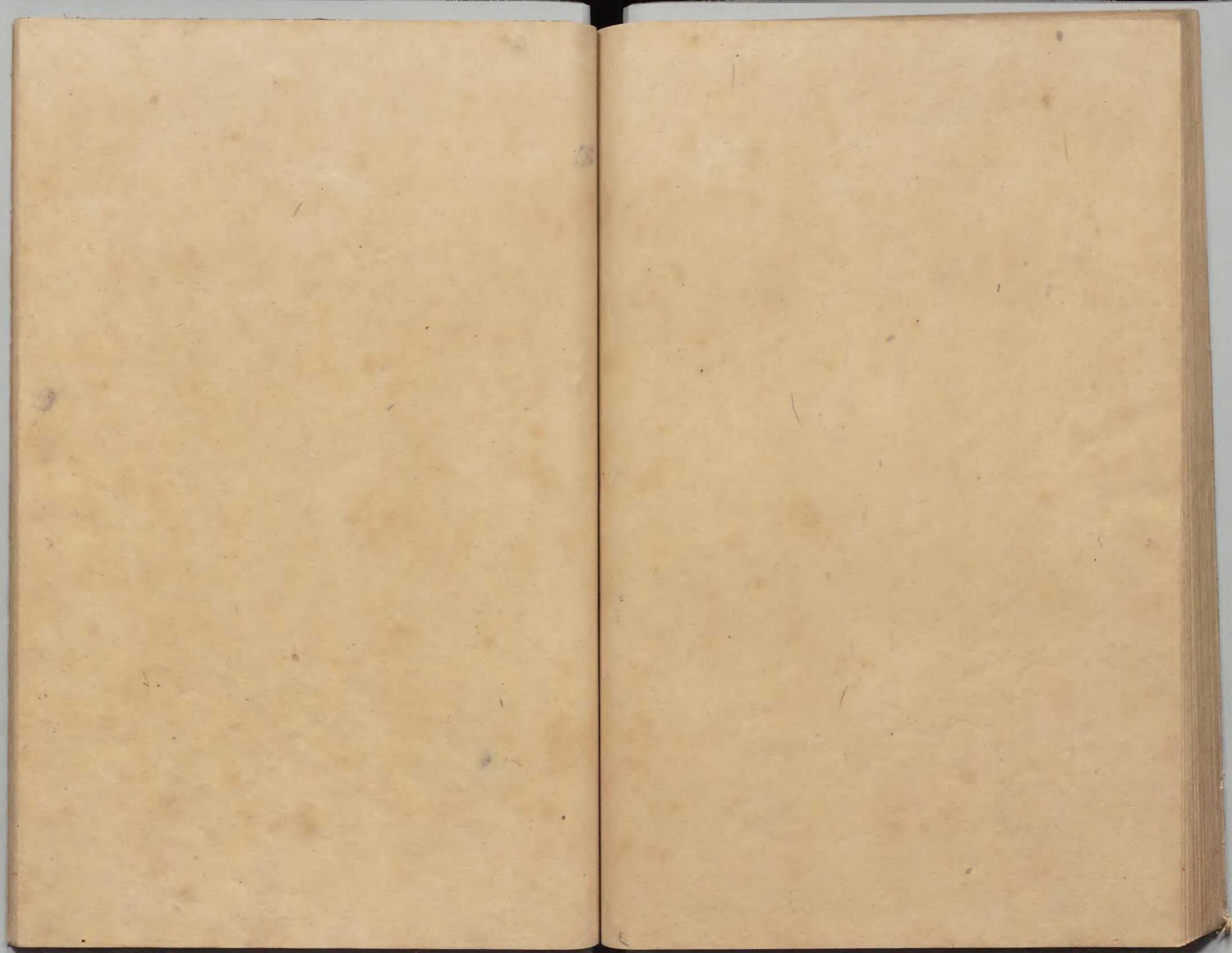
六巻 十國同前

寛永五年

將軍家一ノ福見一ノ事

同七ノ一ノ事

家ノ段相



正則

勝部

山本氏政

生國

清名

正信

右衛門

尚正

山内氏出...
大校現因東洋入國乃時...
乃後...
文祿二年小病死二十二歳...
蓮正

甚之右衛門

大校現...
蓮正

正房

寛永元年小病死...
蓮喜

甚之右衛門

寛永二年

將軍...
同七年...
病死二十二歳...
蓮喜

宗喜

正次

五卷

寛永十二年

將軍家

家ノ級目録

三上

● 季次

新入

季次

三上

秀吉
房
使
つ
心

季台

半台

六歳方時より十二歳まで

台内院殿を習ふる書法は

てまゝ

家乃紋九乃肉之引

幕級二布白二布黒

小倉

● 重正

常陸介

生國山城

正勝

甚良

生國同前

正能

安右少将 生國同前

中村式部少輔 了了

元和九年七月小死とて咸亨二

法名加雲

三次

忠右少将 生國同前

寛永三年開ヶ原沖陣乃中

めさる

大権現 了了

寛永八年二月病死 歳五七

法名宗申

正守

忠右少将 生國同前

寛文三年小堀次左衛門政行傳所次

開ヶ原清陣乃前父新助政次と同
多し出さしめし

大権理下つて身をまわつて正守蔵

少く小倉正次の家書りらあはし

あつては氏を小倉こわしたし

寛永二年正守くめく

名徳修殿へ有得くをまわつ

勅付く

同八年書及死くくらきと

有領く

実父家乃級崩り瘡の死れあふ

丸のうらふ出字くあしたし

正史

安土東の村 生國同家

寛永十二年終りわらへし

書院書あつてし

同十五年清切末く

家乃致齋の丸

